

⑪実用新案公報 (Y2) 平4-48163

⑫Int. Cl.
A 61 B 5/022

識別記号

序内整理番号

⑬公告 平成4年(1992)11月13日

8932-4C A 61 B 5/02 335 A
8932-4C 335 H

請求項の数 1 (全3頁)

⑭考案の名称 血圧測定用圧迫帯

⑮実 願 昭63-158353 ⑯公 開 平2-79902

⑰出 願 昭63(1988)12月5日 ⑱平2(1990)6月20日

⑲考案者 奥 晃 彦 京都府京都市右京区花園中御門町3番地 株式会社立石ライフサイエンス研究所内

⑲考案者 佐藤 静夫 東京都中央区入船1丁目2番8号 サンパーク東京銀座705号 株式会社サート医研内

⑲出願人 オムロン株式会社 京都府京都市右京区花園土室町10番地

⑲出願人 株式会社サート医研 東京都中央区入船1丁目2番8号 サンパーク東京銀座705号

⑲代理人 弁理士 杉山 泰三

審査官 立川 功

⑲参考文献 実開 昭63-43501 (JP, U) 実開 昭57-54402 (JP, U)

1

2

⑲実用新案登録請求の範囲

外表全面に雌型の面ファスナー1'を重設された熱可塑性軟質合成樹脂製の外面シート1と重設されていない熱可塑性軟質合成樹脂製の内面シート2とを重合し且つこれ等外面シート1、内面シート2の一方の半分間に所定の大きさの連続気泡性スポンジ3を挿入すると共に当該両面シート1、2を、同シートにおいてチューブ連続部分を除いた全周縁と前記スポンジ3を囲繞する線上においてチューブ連結部分を除いた個所とにおいて相互に気密に溶着することによってチューブ連結孔4を備えた空気袋5を一方半分個所にもつ圧迫帯本体6を構成し、この圧迫帯本体6における他方半分個所の外端部の内面に雄型の巻止用面ファスナー7を、同じく内端部の内面にテープ状のゴム紐8を介して雄型の仮止用面ファスナー9を夫々取付けると共に前記圧迫帯本体6のチューブ連結孔4に送気用チューブ10の先端を連結したことを特徴とする血圧測定用圧迫帯。

考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は指帶、腕帶、カフ、マンセッターなど

と通称されている血圧測定用圧迫帯に関するものである。

(従来の技術)

従来、実開昭57-54402号公報によつて、体動5を和らげる緩衝材として、あるいは感触を良好とするためにスポンジを用いた圧迫帯が開示され、また、実開昭63-43501号公報によつて、指の当接圧で変形しない肉厚芯体を空気袋内に入れた圧迫帯が開示されている。

(考案が解決しようとする課題)

上記従来の技術において述べた両圧迫帯は、a、二重クッション性による圧迫効果を得ることができない。b、送気用チューブを開放状態とし且つ空気袋およびスポンジに外圧を加えて内部の15空気を排出することにより当該空気袋およびスポンジを押し潰して全体を薄い形とすると共に送気用チューブを閉塞状態とし全体を薄い形に保持する等のことができない。c、このような保持状態において送気用チューブを開放状態としたときにはスポンジ自身の弾力性によつて旧状に復帰して脹らみ且つこれと同時に当該スポンジの脹らみ力によって空気袋も吸気して脹らむ等のことができ

(2)

実公 平4-48163

3

4

ない。

本考案はA、二重クツション性による圧迫効果を得ることができる。B、送気用チューブを開放状態とし且つ空気袋およびスポンジに外圧を加えて内部の空気を排出することにより当該空気袋およびスポンジを押し潰して全体を薄い形とすると共に送気用チューブを閉塞状態とし全体を薄い形に保持する等のことができる。C、このような保持状態において送気用チューブを開放状態としたときにはスポンジ自身の弾力性によって旧状に復帰して脹らみ且つこれと同時に当該スポンジの脹らみ力によって空気袋も吸氣して脹らむ等のことができるよう工夫した新規の血圧測定用圧迫帯を提供することを目的とするものである。

(課題を解決するための手段および実施例)

前記目的を達成するために本考案に係わる血圧測定用圧迫帯は、外表全面に雌型の面ファスナー1'を重設された熱可塑性軟質合成樹脂製の外而シート1と重設されていない熱可塑性軟質合成樹脂製の内面シート2とを重合し且つこれ等外面シート1、内面シート2の一方の半分間に所定の大きさの連続気泡性スポンジ3を挿入すると共に当該両面シート1、2を、同シートにおいてチューブ連続部分を除いた全周縁と前記スポンジ3を囲繞する線上においてチューブ連結部分を除いた個所とにおいて相互に気密に密着することによつて構成したので、送気用チューブを開放状態とし且つ空気袋およびスポンジに外圧を加えて内部の空気を排出することにより当該空気袋およびスポンジを押し潰して全体を薄い形とすると共に送気用チューブを閉塞状態とし全体を薄い形に保持する等のことができ、このような保持状態において送気用チューブを開放状態としたときにはスポンジ自身の弾力性によって旧状に復帰して脹らみ且つこれと同時に当該スポンジの脹らみ力によって空気袋も吸氣して脹らむ等のことができ、また第2図において仮想線で示すように使用時には空気袋に充填された空気とスポンジ3によつてもたらされた二重のクツション作用による圧迫効果を得ることができるものであつて、所期の目的を完全に達成する効果を有するものである。

(作用)

装着に際しては先ず送気用チューブ10を開放状態とし、この開放状態で測定部に巻き着け且つ仮止用面ファスナー9を外表面の面ファスナー1'に噛合させたのち必要に応じて位置直し等を行つてから巻止用面ファスナー7を外表面の面ファスナー1'に噛合させればよい。このとき、スポンジ3が適度に潰れた状態となることが望ましい。

(考案の効果)

本考案に係わる血圧測定用圧迫帯は、外而シートの外表全面に雌型の面ファスナー1'を、他方半分個所の外端部の内面に雄型の巻止用面ファスナー7を、また他方半分個所の内端部の内面にテープ状のゴム紐8を介して雄型の仮止用面ファスナー9を夫々設けたので、測定部への装着またはその解消操作を極めて容易に行うことができる著効があるは勿論であるが、特に本考案において圧迫帯本体6は、熱可塑性軟質合成樹脂製の外而シート1と重設されていない熱可塑性軟質合成樹脂製の内面シート2とを重合し且つこれ等外而シート1、内面シート2の一方の半分間に所定の大きさの連続気泡性スポンジ3を挿入すると共に当該両面シート1、2を、同シートにおいてチューブ連続部分を除いた全周縁と前記スポンジ3を囲繞する線上においてチューブ連結部分を除いた個所とにおいて相互に気密に密着することによつて構成したので、送気用チューブを開放状態とし且つ空気袋およびスポンジに外圧を加えて内部の空気を排出することにより当該空気袋およびスポンジを押し潰して全体を薄い形とすると共に送気用チューブを閉塞状態とし全体を薄い形に保持する等のことができ、この保持状態において送気用チューブを開放状態としたときにはスポンジ自身の弾力性によって旧状に復帰して脹らみ且つこれと同時に当該スポンジの脹らみ力によって空気袋も吸氣して脹らむ等のことができ、また第2図において仮想線で示すように使用時には空気袋に充填された空気とスポンジ3によつてもたらされた二重のクツション作用による圧迫効果を得ることができるものであつて、所期の目的を完全に達成する効果を有するものである。

図面の簡単な説明

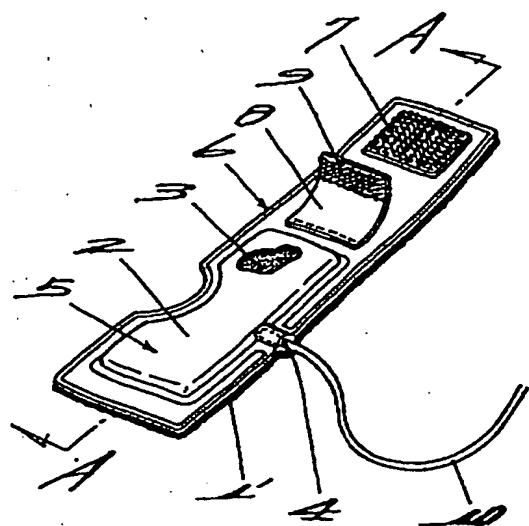
第1図は本考案血圧測定用圧迫帯の実施例を示す全体の斜視図、第2図は第1図A-A線に沿う断面図である。

1……外而シート、1'……面ファスナー、2……内面シート、3'……スポンジ、4'……連結孔、5'……空気袋、6……圧迫帯本体、7……巻止用面ファスナー、8……ゴム紐、9……仮止用面ファスナー、10……送気用チューブ。

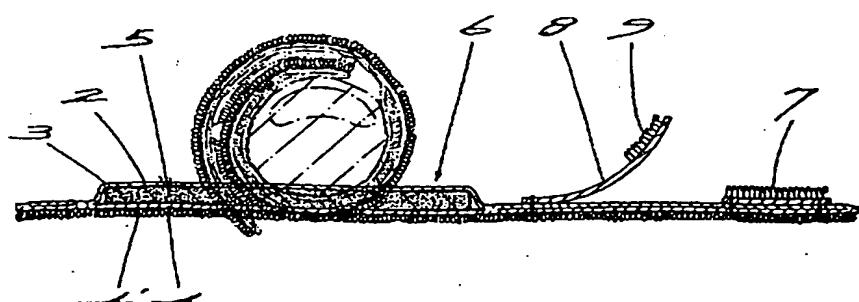
(3)

実公 平4-48163

第1図



第2図



(3) … スポンジ

(5) … 空気袋

(6) … 圧迫帶本体

(57) 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】外表面に雄型の面ファスナー1'を重設された熱可塑性軟質合成樹脂製の外面シート1と重設されていない熱可塑性軟質合成樹脂製の内面シート2とを重合し且つこれ等外面シート1、内面シート2の一方の半分間に所定の大きさの連続気泡性スポンジ3を挟入すると共に当該両面シート1、2を、同シートにおいてチューブ連続部分を除いた全周縁と前記スポンジ3を囲繞する線上においてチューブ連結部分を除いた個所とにお

いて相互に気密に溶着することによつてチューブ連結孔4を備えた空気袋5を一方半分個所にもつ圧迫帯本体6を構成し、この圧迫帯本体6における他方半分個所の外端部の内面に雄型の巻止用面ファスナー7を、同じく内端部の内面にテープ状のゴム紐8を介して雄型の仮止用面ファスナー9を夫々取付けると共に前記圧迫帯本体6のチューブ連結孔4に送気用チューブ10の先端を連結したことを特徴とする血圧測定用圧迫帶。

【書誌的事項】

(19) 【発行国】日本国特許庁 (JP)
(12) 【公報種別】実用新案公報 (Y)
(11) 【公告番号】実公平4-048163
(24) (44) 【公告日】平成4年(1992)11月13日
(54) 【考案の名称】血圧測定用圧迫帶
(51) 【国際特許分類第5版】

A61B 5/022

【請求項の数】 1**【全頁数】 3**

(21) 【出願番号】実願昭63-158353
(22) 【出願日】昭和63年(1988)12月5日
(65) 【公開番号】実開平2-079902
(43) 【公開日】平成2年(1990)6月20日
(71) 【出願人】

【識別番号】99999999

【氏名または名称】オムロン株式会社

【住所または居所】京都

(71) 【出願人】

【識別番号】99999999

【氏名または名称】株式会社サトー医研

【住所または居所】東京

(72) 【考案者】

【氏名】奥 晃彦

(72) 【考案者】

【氏名】佐藤 静夫